



卒業、入学を心から祝う

新潟大学教育学部同窓会 会長
臼 杵 勇 人

令和4年度の卒業式が3月23日、朱鷺メッセで2年ぶりに保護者のご列席のもと挙行されました。教育学部を卒業された219名の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、大学2年次から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面式での授業・講義や学生同士の会話、実験、切磋琢磨的な関わりが受けられず、オンライン等での授業で本当に苦勞されたことでしょう。4年次には「対面・非対面」のハイブリットの授業・講義や教育実習など、コロナ禍でも充実した一年を過ごされたのではないかと推察いたします。

さて、卒業後、ご自分の夢を叶えて教員としての第一歩を踏み出した方も多と思います。年度初めは、教師と子ども、子ども同士の新たな出逢いがあることから、「人間関係作り」がとても大切な時期だと言われています。コロナ禍でマスク着用のため会話もままならず人間関係が希薄になりがちでしたが、これからは子どもたちの心に寄り添った、心の通った学級経営を行い、教師と子どもの信頼関係をより強固なものにしていってほしいと思います。

教育学部同窓会は、卒業された皆さんを心より応援しております。卒業された皆さん一人一人が描いた熱い思いや願いを忘れず、悔いのないよう取り組んでもらいたいと思います。同窓会では教育学部を卒業後5年までの皆様に招待して「カミングホームディ」（令和5年8月5日（土）実施予定）を開催する予定です。是非参加をお願いいたします。

令和5年度、教育学部に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。高校生活の3年間は、まさに新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底で、新たな生活様式を強いられたのではないかと思います。その中でも「思い出多い3年間」を過ごされたのではないのでしょうか。

新潟大学は「自立と創生」を理念として掲げ、「真の強さを学ぶ」総合大学です。世界と地域の課題に真摯に向き合いながら次世代の人材育成と研究の推進に寄与し、社会に貢献してきました。特に、教育学部は、「未来を担う子どもたちを教育する」教員養成に特化した学部です。自分の目指す教師像、「こんな先生になりたいな」という思いや願い「ビジョン」をしっかり持って学び続けていただきたいと思います。

教育学部同窓会は、入学された皆様から永年会員になっていただくとともに、皆様の応援とバックアップをして参ります。教育学部同窓会のホームページや広報紙「教育新報」（年2回発行）をご覧ください。また、教育学部の校舎内に「同窓会事務局」がありますので、お気軽にお声がけくださればありがたいです。



同窓会活動を粛々と進めます

新潟大学教育学部同窓会 会長
臼杵 勇人

日ごろから教育学部同窓会の活動推進に格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。私は本年度も引き続き同窓会長を務めます昭和55年卒、28期の臼杵 勇人と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

6月3日(土)、令和5年度新潟大学教育学部同窓会・評議会が開催されました。ご多用の中、また台風一過で足元の悪い中、県内各地よりご出席いただいた各地区の支部長、学科代表の皆様にご感謝申し上げます。また、当日ご臨席賜りました藤林教育学部長様、高木教育実践学研究所長様、本当にありがとうございました。

評議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度から4年度まで3年間、書面表決による開催でした。今年の5月8日から季節性インフルエンザと同様の5類とはなりましたが、まだまだ油断のできない状況が続いております。そんな中でも、直接皆様と顔を合わせながら評議会を開催できたことを、大変嬉しく思っております。

評議会の議事の前に、教育実践学研究所生4人へ奨学金を授与し、各自の研究を発表していただきました。その後、議事として昨年度の事業・活動のまとめと本年度の具体的な活動計画、そして規約・規程の一部改定について慎重審議を行い、承認していただきました。

評議会後に支部長会、学科代表者会を一緒に開催いたしました。入学する学生が180人になったことや学校会員数の減少が財政基盤に大きく響いている実態を紹介し、会費納入の課題についても話し合いました。詳しい事は教育新報をご覧いただきたいと思ひます。

さて、来年の令和6年、新潟大学創立75周年を迎えます。大学では実行委員会を組織して75周年事業を計画しています。全学同窓会、教育学部同窓会としても連携・協力しているところです。アフターコロナの中、教育学部同窓会の活動を粛々と進めて参りたいと考えておりますが、持続的で充実した運営と各種事業の推進のために、会員の皆様からの更なるご支援とご協力を願ひいたします。

結びになりますが、今、教員の勤務実態調査を受け、長時間労働「教員働かせ放題」をどう改革するか、「ブラック職場」と言われる業務の負担軽減、給特法の見直しなどの施策を国や文科省が検討段階に入っています。また、教員確保のため民間企業に対抗し、採用日程を6月16日標準とするよう都道府県教育委員会に要請を出しています。現在、新潟大学教育学部では将来教員を志望する学生が真剣に学んでいます。22年3月の卒業生の教員就職率が59%となり毎年増えてきていますが、新潟県、いや日本の将来を担う子どもたちのための教育を行うには、教員の待遇見直しと業務の軽減、やり甲斐、働き甲斐のある職場環境の改善が重要です。教員の待遇改善や教員の確保の動向を今後ともしっかり注視していきましょう。

令和5年度 教育学部同窓会の活動の重点

令和6年度に新潟大学創立75周年を迎える。教育学部同窓会が創立75周年記念の全学同窓会交流会の担当学部となることから、本年度より準備を万端にしていきたい。また、収束しつつある新型コロナウイルスについても感染拡大防止の徹底を図った上で同窓会活動を遺漏なく進めていきたい。そして、質の高い教員を養成し教員採用率の向上を目指す『教育学部』や、高度な教育的実戦力や専門性を育成する『教育実践学研究科』との連携・協力で、母校の発展と同窓生相互の親睦がより一層深まる方法を工夫し、同窓会活動の充実を図っていきたい。

1 「同窓生の集い」の充実

- (1) 講演会・親睦会として、時代の要請にマッチした講師の選定、内容の充実を図る。
- (2) 支部組織の強化や学科の仲間にも呼び掛けを行い、絆強化のいい機会となるようにする。
- (3) コロナ禍での開催方法を工夫し、安心・安全な「同窓生の集い」となるようにする。

2 広報活動の充実

- (1) より親しまれ、読み応えのある「教育新報」を目指し、内容の充実を図る。
 - 教育学部、教育実践学研究科、会員相互の様子をできるだけ多く掲載し、情報を提供する。
- (2) 会員相互の情報提供及び情報交換の場として、ホームページの一層の活用・充実を図る。

3 組織の充実と強化

- (1) コロナ禍でも各支部活動や学科の集まり、同期の会など、縦と横のつながりを支援する。
- (2) 専門部の事業や各支部・学科の活動を基に、会員の帰属意識の向上を図る。

4 大学との連携

- (1) 教員養成改革の動向に合わせて、母校の発展のための助言や支援方法を工夫する。
- (2) 教育実践学研究科の維持・継続・発展のための支援を推進する。
- (3) 学生への支援並びに学部教官の同窓会活動への参加を働きかける。
- (4) 教育学部、教育実践学研究科と連携して「カミングホームディ」を開催し、教官との情報交換と絆づくりをとおして、同窓生としての帰属意識を醸成する。

5 全学同窓会との連携

- (1) 令和5年度の全学同窓会交流会・講演会(医学部保健学科担当)への参加を呼びかける。
- (2) 「新潟大学カード」の周知を図り、加入者・利用者を増やす。
- (3) 全学同窓会賛助会費の周知を図る。

(4) 令和6年度の新潟大学創立75周年記念全学同窓会交流会の計画・準備を進める。

令和5年度 第48回『同窓生の集い』行われる

新潟大学教育学部 同窓会長 白杵 勇人

令和5年9月16日（土）、アートホテル新潟で令和5年度 第48回「同窓生の集い」が開催されました。

ご多用の中、藤林教育学部長様、高木教育実践学研究所長様、そして顧問の皆様にもご臨席賜りました。参加して下さった約50人の皆様と対面式で同窓生の集いを2年続けて開催できる喜びを感じてしまいましたうゆ。

新型コロナウイルスは、5月8日から季節性インフルエンザと同様の5類とはなりましたが、まだまだ油断のできない状況が続いております。特に新潟市では、夏休み明けの9月からは感染の拡大の兆しがあり、市内の小、中、高校でも何校か学級閉鎖が出ているので、今後とも十分注意していかなくてはならない状況です。



さて、このたびの講演会は、「第二のふるさと新潟の学び」と題して、新潟大学教育学部教授の岡村 浩教授から講演していただきました。

岡村教授は、埼玉県川越市出身で私たちと同じ新潟大学教育学部の卒業生であります。現在、教育学部・経済科学部・大学院現代社会文化研究科の教授をされています。また、岡村鉄琴という号で「看板 体を表す」と新潟日報に第一、第三、第五土曜日に執筆されたものが掲載されているのでご存じの方も多いかと思います。また、越佐文人研究の代表を務められ「良寛」、「會津八一」を中心とする新潟の書画研究をされています。全学同窓会でも交流・学術部の部会長として大活躍していただいています。

その他にも、全国大学書写書道教育学会理事（北陸地区代表）、日本教育大学協会書道部門委員（北陸地区代表）もされています。研究されている分野は、書写書道教育、現代の書表現、近世以降新潟県ゆかりの書画文芸などだそうです。

「第二のふるさと新潟での学び」という講演では、岡村先生の自己紹介からスタートし、大学の新正門にある門柱に刻まれた『新潟大学』の石版の由来について紹介して戴きました。書道科第2代の竹内臨川教授の縦書き作品を大学のロゴと定め、横書き主流の現今にあたって新たに四字を横組みにして多用していることを紹介していただきました。

「変わりゆく学び舎」「学生との日常から」「伝統文化と良寛さん」という3つのキーワードをもとに素敵なお話をたくさんお聞きすることができました。特に、幼稚園時代は人見知りで、あまり人との会話が苦手であったこと、人と群れない、人まねをしないなどのお話、そして、良寛や會津八一などの研究にも卓越し、幅広く地域の細かいことを知ろうと奔走していること、そして、学生には色々な経験を積むため実際に歩いて学び、発見することの大切さを指導していることなどを紹介していただきました。「夢と希望」をもって日々視野を広げ、専門性を追求しようとする生き様を講演していただきました。

岡村教授に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

